

第 36 回測量調査技術発表会 開催報告

開催日 2014年7月4日 10:00~17:00

会場 新宿区立四谷区民ホール

公益財団法人 日本測量調査技術協会（以下、測技協）の「測量調査技術発表会」は、測技協会員企業の先端技術の発表の場として毎年開催しており、会場は昨年から2度目となる新宿区立四谷区民ホールにて開催しました。第36回の本年は、9編の技術発表と3編の部会・WG活動報告、東京大学大学院情報学環 教授 池内克史氏による特別講演を行いました。また、発表者のパフォーマンスを技術委員会が審査し選考された優秀発表賞3名を表彰いたしました。参加者数、発表内容、表彰等の詳細は次のとおりです。

■参加者数 340名

(測量および設計 CPD 発行 308名(参加)、
測量 CPD 14名(発表) 3名(受賞))



■発表内容

1	単写真を用いた簡易的測定による位置情報の取得方法	株式会社東京地図研究社	谷口 亮
2	三次元地形データの防災分野での利活用	アジア航測株式会社	謝花 達磨
3	自動マルチビーム測深システムによる水中3次元データの取得	中日本航空株式会社	神谷 光顕
4	OSS を利用した簡易な地図画像配信とその利活用について	朝日航洋株式会社	沼田 圭太
5	モバイルマッピングシステム (MMS) における GLONASS 衛星併用時の効果	アジア航測株式会社	小堀 裕貴
6	ALB (航空レーザ測深機) の河川測量への適用	株式会社パスコ	小澤 淳真
7	3Dモデリングを利用した 高ダイナミックレンジ画像の有効性について	朝日航洋株式会社	塩谷 章
8	位置情報付斜め写真撮影システムとその活用	アジア航測株式会社	野中 秀樹
9	航空レーザ測量と既存の数値地形図を用いた砂防基盤図作成とその利点 ~伊豆大島を事例として~	国際航業株式会社	中村 博祐
10	航空レーザ測量による災害対策事例集と航空レーザ測量データポータルサイトの紹介	測技協空中計測・マッピング部会レーザWG	横尾 泰広
11	特別講演「AR (拡張現実) と先端測量技術」 —大規模屋外構造物のモデル化とその応用—	東京大学大学院情報学環	教授 池内 克史
12	GNSS 測量におけるマルチパスの実影響の把握に関する基礎的研究その2	測技協位置情報・応用計測部会 GNSS-WG	鵜飼 尚弘
13	将来的な防災・減災につながる GIS 技術を用いたサービス これに関わるシステム、データの現状のとりまとめ・トピック	測技協 GIS 部会	中山 修 西田 隆人

本発表にもとづく論文等は先端測量技術本号に掲載しています。

■表彰

17名の審査員により、審査採点表により1)プレゼンテーション内容に基づく技術内容 4つの視点(40点満点) 2)発表の仕方 3つの視点(60点満点)の100点満点にて採点し、以下の3名を選考し優秀発表賞として表彰しました。

優秀発表賞 3 題 (発表順)

	タイトル	発表者
優秀発表賞 1	自動マルチビーム測深システムによる水中 3次元データの取得	神谷 光顕 (中日本航空株式会社)
優秀発表賞 2	モバイルマッピングシステム (MMS) における GLONASS 衛星併用時の効果	小堀 裕貴 (アジア航測株式会社)
優秀発表賞 3	ALB (航空レーザ測深機) の河川測量への適用	小澤 淳真 (株式会社パスコ)



池内克史教授 特別講演



表彰者

■特別講演

東京大学大学院情報学環 教授 池内克史氏により『「AR (拡張現実) と先端測量技術」一大規模屋外構造物のモデル化とその応用』のタイトルによる特別講演を行いました。

コンピュータビジョンの第一人者として活躍されている池内教授の講演は、ITS 自動走行、MMS での被災地データの取得による復旧活動の記録、仮想モニュメントによる被災建物の保存、3次元トンネルデータ化や色彩モデリング・動的活動のモデル化による3次元仮想化空間、クラウド仮想化都市空間、大規模屋外構造物のモデル化など興味深い内容となりました。この講演の内容は先端測量技術本号に掲載しています。

■部会・WG活動報告

WG活動報告としてレーザWGより航空レーザデータの利活用の拡大を課題とした事例集の作成とポータルサイト開設の報告、GNSS_WGよりマルチパスの実影響についての実験報告がありました。また、GIS部会からは、2ケ年の活動計画の中間報告として、現状の整理状況と2年目に向けた展望が報告されました。

■その他

本発表会は測量 CPD と設計 CPD 対象プログラムに認定されており、事前参加の申し込み人数は過去最高となりました。これは継続教育の重要性が業界認識として年々高まっていることをあらわしています。学習ポイント取得の条件として来場者のチェックを厳格に行う必要がありますが、技術委員会・技術部会幹事及び技術普及部会の支援により円滑な運営がなされたことに感謝申し上げます。